



農村地帯でのRE100化を目指す女性農家たちの挑戦

NPO法人田舎のヒロインズ

〒869-1501 熊本県阿蘇郡南阿蘇村両併1283-3
☎080-3987-2160 <http://inakano-heroine.jp/>



女性農家たちによる「農家だからこそできる脱炭素への挑戦」。農地の一部で発電をし(ソーラーシェアリングなど)、できた電気の一部をつかって農産物の加工をする。そして廃棄する農産物を減らす。将来的には電気自動車を導入し、車に依存する農村での暮らしからCO₂を削減しつつ、農産物の価値や保存性を上げることを目指している。またこうした取組の普及や啓発のためのセミナーやイベント、出前授業を行ってきている。



審査コメント

車に頼らざるを得ない農業の現実がありながら、全国各地の女性の農家さんが有志で集まり、「RE100」(再生可能エネルギー100%)という高い目標を立て、「脱炭素」に挑戦する取り組みは本当に素晴らしいです。まさに「脱炭素チャレンジカップ」の環境省グランプリに最もふさわしい取り組みだと思いました。農業分野における、脱炭素社会を目指してこれからも頑張ってほしいと思います。

審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

脱炭素に向けたたくさんの素晴らしい取り組みをされている団体さんがいらっしゃる中、「こういうことをしていきたい」という夢ばかり先行して、具体的なCO₂削減の実績には乏しい私たちの団体がグランプリを頂いたことに恐縮しております。とは言え、この度の受賞は審査員の先生方からのエールだと受け止め、農業と言う欠かせない産業の中でできる脱炭素の取組を加速させ、RE100にとどまらず、農村にこそ豊かな自然エネルギーを生み出していけるよう精一杯努力します。世界がこのような危機的な状況になる中、今まで以上に責任と希望を持って「食べ物とエネルギー」を創り出し、国が封鎖されても持続可能でいられる社会を目指していきたいです。

学生部門

環境大臣賞 金賞(学生部門)

Kakishibuを世界基準に

京都府立木津高等学校 ソーシャルビジネス研究班

〒619-0214 京都府木津川市木津内山田34

☎0774-72-0031 <http://www.kyoto-be.ne.jp/kizu-hs/mt/>



世界のマイクロプラスチック問題を「柿渋」を使って解決する取り組みです。渋柿からとれる「柿渋」により、紙袋やペーパーストローを柿渋でコーティングし、今のレジ袋やプラスチック製のストローに代わるものを提供します。天然素材を使用することにより、循環資源として、私たちの住む木津川市で利用を普及し、いずれは世界の環境問題解決に繋げる事を目標にしています。木津川市は、かつて日本三大柿産地のひとつでした。



審査コメント

紙袋は強度の点で課題がありますが、昔から和傘などに使われてきた、日本の伝統技術である柿渋を見直し、活用している点はユニークですし、素晴らしいと思います。すでに全国規模の企業とも連携し、普及する段階に来ており、今後の展開が楽しみです。地元産の柿渋を活用しているため、地域活性化の観点からも期待しています。

審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

この度は環境大臣賞・金賞(学生部門)を頂くことができ、とても光栄に思います。ありがとうございます。この一年間、アイデアが少しでも多くの人に届き、そして実現に近付けるようにと様々な方に協力・応援をして頂きました。今回、環境大臣賞という形で私たちの活動が評価されたことは、今後の自信に繋がりました。また、本番当日の4分間という短いプレゼンテーションの中で、自分たちが何を伝えたいのか改めて考え直すきっかけにもなりました。「Kakishibu」という天然素材は脱炭素を叶える力を秘めたものだ和我们は考えています。大会で受賞したことに終わらず、よりよくするためにチャレンジしていこうと思います!



環境大臣賞 金賞(ジュニア・キッズ部門)

こどもツーリズム・エコ株式会社

だいやエコクラブ

〒857-0874 長崎県佐世保市京坪町6-15黒田ビル103
☎050-7573-8981 <http://www.j-ecoclub.jp/ecoreport/profile.php?id=584>



だいやエコクラブのメンバーは、環境活動の取り組みとして「こどもツーリズム・エコ株式会社」を設立しました。メンバーが「社員」となり、SDGsをスローガンに掲げ、17の目標を達成するための、エコツアーやエコ主総会の企画運営・ツアーガイドを行う会社のような団体です。この会社は「エコ主」を募集します。そして、エコ主になる条件は、アルミ缶、不用品を持ってきて、リサイクル活動やフリーマーケットに協力する事です。



審査コメント

子供たちが主体的となり、環境活動のエコツアーを自ら主催し、ツアーガイドなども行っているほか、リサイクル活動を行った「エコ主」制度を作るなどユニークな取り組みをしていると思います。SDGsという大きなスローガンに掲げ、広い視野で活動されていると感じました。

審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

この度は、名誉ある賞をいただき誠にありがとうございます。
全国から集まったファイナリストのみなさんの取り組みや活動がすばらしく、よい刺激を受け、脱炭素社会に向けての意識がさらに高まりました。
今後の予定では、参加してもらったエコ主と関係者の皆さんに集ってもらい、脱炭素チャレンジカップの報告会を予定しています。
こどもツーリズム・エコ株式会社は社員、エコ主、地域の皆さんとともに力を合わせて、「脱炭素社会」を目指してがんばります。
未来に生きるすべての生物が豊かで幸せに生きる「持続可能な世界」を実現できると信じ、私たちはこの活動を継続していきます。

ファイナリスト紹介



市民部門

環境大臣賞 金賞(市民部門)

プラントベースレストラン「3RキッチンVegan」

NPO法人いけだエコスタッフ

〒563-0058 大阪府池田市栄本町1-8

☎072-752-7711 https://www.instagram.com/3r_kitchen_vegan/



「畜産による温暖化」を抑制するため、植物性由来の食材だけを使ったVeganレストランを、週に1度月曜日だけ運営しています。これは、1人に毎日菜食より、10人に週1回だけ菜食をすすめる方が、持続可能で無理なく取り組めるからです。またプラスチックごみ問題の観点から、ストローやおしぼり、テフロン加工のフライパンなどを使用せず、また地域の農家の方から野菜をいただくなど、地産地消にも取り組んでいます。



審査コメント

「畜産による温暖化」の抑制を考え、食から「脱炭素」を目指した取り組みは非常に価値があると思います。「1人に毎日菜食」ではなく、「10人に週1日菜食」を勧めていることも、多くの人が賛同しやすい工夫をされていると感じました。脱炭素社会にとって、食は重要なキーワードの1つですので、今後の展開の広がりに期待しています。

審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

今回の応募に際して、より地域との連携を考えるきっかけになり、受賞したことでより私たちの将来ビジョンへの自信となりました。そしてなにより、これまで「いけだエコスタッフ」を応援し、支えてもらった方々への良い報告ができました。(みなさん、とても喜んでいただきました!)また他団体の様々なプレゼンテーションを聞き、気づきと学びの多い1日になると同時に、誰でも、どこでも、いつでも脱炭素社会への取り組みを始められるんだ、とあらためて実感しました。今後、脱炭素チャレンジカップで出会った方々とコラボして、新しい取り組みに発展できることを望んでいます。

コンクリートから木へ。 CLTで創る脱炭素社会の住まいと暮らし

大東建託株式会社

〒108-8211 東京都港区港南二丁目16番1号 品川イーストワンタワー22階
☎03-6718-9051 <https://www.kentaku.co.jp/>



脱炭素社会の建物は「コンクリートから木へ」。コンクリートに代わる木製建築素材CLT(直交集成板)に大きな注目が集まっています。しかし、割高な製造コストや技術的な課題があるため、いまだ一般的な普及には至っていません。そこで、大東建託は、CLT工法の独自開発や一貫供給体制の構築等に取り組み、日本で初めてCLT住宅の“商品化”に成功。CLT住宅を通し、脱炭素社会の住まいと暮らしの提供を目指します。



審査コメント

脱炭素社会に向けて、住宅は大きな課題の一つである一方、改善できることがたくさんある分野だと思います。大手の企業が率先して、「コンクリートから木」への転換を図ることは社会へのインパクトが大きく、非常に価値あることだと思います。脱炭素社会のために全国での普及に期待しています。

審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

この度は、脱炭素チャレンジカップに生まれ変わった記念すべき年に、環境大臣賞 金賞(企業・自治体部門)という素晴らしい賞をいただき、誠にありがとうございました。

当社のCLT集合住宅による都市の木造化の取り組みを高く評価いただけましたこと、関係者一同、大変光栄に思っております。

今回さまざまな地域や分野で活動されているファイナリストの皆様との取り組みを知ることができ、大変有意義でした。また、皆様が楽しみながら社会の脱炭素化にチャレンジされている様子に感銘しています。今回の受賞を励みとして、当社も全力で脱炭素社会の実現に取り組んでまいります。

ファイナリスト紹介



ジュニア・キッズ部門

文部科学大臣賞 社会活動分野／マクドナルドオーディエンス賞

SDGsとESDこども脱炭素 チャレンジミュージカル

劇団シンデレラ with逆川こどもエコクラブ

〒457-0042 愛知県名古屋市南区曾池町1-24-2

☎090-8499-0025

劇団シンデレラ <http://www.dozira.net/> 逆川こどもエコクラブ <http://sakasagawaeco.blogspot.com/>



文部科学大臣賞

社会活動分野

オーディエンス賞
マクドナルド
ハンバーガー1年分



ミュージカルを通じてSDGsを伝える劇団シンデレラ、泥だらけになって地域の環境再生でESDを広げてきた逆川こどもエコクラブ。伝える・広げる双方の持ち味を活かして世界湖沼会議や日韓環境交流等でコラボ。出先ではクラブキッズが自然観察会や学習会を指導し、シンデレラキッズが地域に見合ったミュージカルを公演。力を合わせて環境保全、クールチョイス運動、脱炭素の呼びかけに協働しながら全国を駆け巡っています。



審査コメント

プレゼンテーションの際の、ミュージカルによる脱炭素社会へのメッセージには心が打たれました。「SDGsのバッジをつけているだけで行動してないのでは?」との子供たちからの問いかけには、ドキッとしました。子供たち目線のメッセージで、全国の市民に脱炭素社会を訴え、行動を促してもらえたらと期待しています。

審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

世界湖沼会議2018で出会った愛知と茨城の子どもたちは、互いに行ってきたことの違いに気がきました。伝える劇団と実践のクラブが融合したら、自分たち周りの人もSDGs達成に向かう感動を与えられることを実感しました。地域を超えて距離を超えて頑張ってきたことともに、大きな賞をいただきましてありがとうございます。姉妹団体は、これからもコラボを続けます。

「木の学び」 ～森づくりから木材利用へ 生徒の歩み～

学校法人自由学園 男子部(高等科)

〒203-8521 東京都東久留米市学園町1-8-15 自由学園男子部

☎042-428-3636 <https://www.jiyu.ac.jp/activity/environment.php>



1950年より埼玉県飯能市で高等科生徒が植育林活動を続けています。近年では育ててきたスギを中等科の木工教材にするため高等科生徒が丸太を運び出し、麓の製材所で製材した板を乾かして学校で加工しています。2018年には飯能市森林認証協議会のメンバーに学校として加わり、植林地の森林認証を受けました。更に今年1月には、飯能市と森林整備に関する協定を締結して、地域と一帯となり森づくりと木材利用を生徒が実践しています。



審査コメント

70年にわたる植育林活動の継続には敬意を表します。そして、植えた木が70年が経ち、森づくりから木材利用へと次のステージに入ったなか、行政と協定を結び、森づくりと木材利用の両面で活動の幅を広げている点は大変評価ができます。ほかの植林活動をしている団体等のお手本となる活動ではないかと思えます。

審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

今回は、貴重な機会を与えていただき感謝申し上げます。そしてこのような素晴らしい賞を受賞することができ、生徒たちの奮励が評価されたのではないかと、大変感無量です。生徒の発表にもあったように、本学の取り組みは受賞がゴールではありません。これまでの70年間の努力と炭素の蓄積を大切にしていき、さらなる発展のために今後も鋭意努力していきます。

学生部門

セブンイレブン記念財団 最優秀地域活性化賞

コーヒー残渣を廃棄物にしない！ ～循環型農業への挑戦～

京都府立桂高等学校 コーヒー豆の活用に関する研究班

〒615-8102 京都府京都市西京区川島松ノ木本町27

☎075-391-2151 <http://www.kyoto-be.ne.jp/katsura-hs/>

最優秀地域活性化賞
広報誌
「みどりの風」への
記事掲載
一般財団法人
セブンイレブン記念財団



京都市はコーヒーの消費量が全国1位です。しかし、その背景には廃棄されるコーヒー残渣があることから、その活用に取り組んでいます。コーヒー残渣をさきの菌床栽培に活用することで、廃棄物から食料生産が可能となりました。しかし、収穫後には培地が廃棄されることに着目。廃培地をも堆肥として活用し、コーヒー残渣を最後まで捨てずに循環させることができるのではないかと、地元の企業や大学と連携しながら進めています。



審査コメント

コーヒー消費量が京都市は全国1位というところに着目し、地元の珈琲店で廃棄されるコーヒー残渣をさきの菌床栽培に活用する取り組みです。菌床栽培の収穫後には培地が廃棄されていたが、廃培地をも堆肥として活用し、コーヒー残渣を最後まで捨てずに循環させることにより、排出されるCO₂や廃棄コストを大幅に削減しています。栽培したさきを店舗で提供するため、共同でメニュー開発を行い、地元の企業や大学と連携し、地域の活性化につながっています。コーヒー文化をもつ京都だからこそ、その廃棄物を活用し、最後まで使い切りたいと考えた視点と行動力が評価されました。

一般財団法人セブンイレブン記念財団 地域活動支援事業マネージャー 小野 弘人

受賞者コメント

この度は、賞をいただきまして、ありがとうございます。まだまだ調査途中の部分もありますが、コーヒー好きの日本だからこそ、この研究を進める意味があると思っています。この受賞を通して、様々な方に私たちの取り組みを知ってもらい、コーヒーを扱う企業や日頃からコーヒーを飲んでいる方まで幅広く、少しでも環境にはたらきかけられる社会をつくっていきたくと考えています。今後も、引き続き研究を進め、この受賞に恥じない結果を出していきたいと思っております。ありがとうございました。

人と自然の豊かな関係をきづく社会実現に向けて

兵庫県立洲本実業高校

〒656-0012 兵庫県洲本市宇山2-8-65

☎0799-22-1240 <http://www.hyogo-c.ed.jp/~sumoto-ihs/>

最優秀エコチャーム賞

ユニ・チャームHP内での

活動紹介



淡路島は、平成23年12月あわじ環境未来島特区に指定を受けた。本ユニットは、低炭素社会実現のために市民の省エネ意識や環境保全意識向上を目的とした活動を行ってきた。環境負荷の小さいソフトエネルギー研究の成果を基として、近隣地域住民にも協力いただき、風車街路灯や水車街路灯の設置、さらには東北絆ボランティア活動にも参加し、石巻市や陸前高田市自治会との協働により風車街路灯の設置も実現させてきた。



審査コメント

9年にわたり脱炭素社会実現に向けた再生可能なエネルギー活用に取り組み、持続可能な仕組み作りに励んでおり、取り組みの一環で地域住民と共に風車街路灯13基、水車街路灯3基を設置。この活動により、住民の環境意識や省エネ意識を高めました。

その活動は脱炭素社会実現に貢献していると評価し、また、当社が目指す「共生社会の実現」につながるモデルケースに該当すると考え「最優秀エコチャーム賞」に選出しました。また、東北「絆」ボランティアとし、仮設住宅への風車街路灯の設置や近隣の小・中学校への出前授業を行い、活動の輪を広げる取り組みを積極的に実施していることや、当日のプレゼンテーションにおける堂々とした自信に満ち溢れた発表も評価しました。

ユニ・チャーム株式会社 ESG本部 ESG推進部 人とペットの共生社会推進担当 主管 熱田 靖

受賞者コメント

本ユニットは専門高校の特色ある活動を生かし、風車・水車の研究を行っています。10年以上続く活動の中で各地で様々なボランティア活動を行い、ソフトエネルギーの重要性や可能性を再確認してきました。ソフトエネルギーは脱炭素社会を目指す上で外せないものであると考えています。今回はこのような場所で発表でき、評価いただいたことを誠に嬉しく感じています。また、他団体様の活動を知り、大きな刺激を受けました。この経験を生かし、これからも研究を続け、脱炭素社会を担える風車・水車の製作とそれを伝えるボランティア活動により一層、取り組んでいきたいと思っております。この度は本当にありがとうございました。

ファイナリスト紹介



ジュニア・キッズ部門

ニトリ最優秀夢・未来賞

ガールスカウトのチカラでみどりを守る人を増やそう！

ガールスカウト東京都第172団

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-13-11-512

☎090-6701-1776 <https://ameblo.jp/girlscout172/>



樹木医率いるNPOみどり環境ネットワーク！様と連携し、環境団体のイベントでスカウトたちが日ごろの訓練のスキルを生かし、自主的に運営や広報を担ってきた。その結果、折々のイベントの参加者の満足度の向上と参加人数の向上に寄与し、緑を守る人々を大きく増やしてきた。さらにその経験を活かし、商店会や社会福祉協議会とつながり、地産地消やエシカル工作教室の提供など、環境をテーマに地域のパイプ役として貢献している。



審査コメント

ニトリ最優秀夢・未来賞は、環境問題への取り組みを通して、夢や希望に満ちた輝かしい未来を、みんなで築いていきたいという想いでネーミングをいたしました。ガールスカウト東京都第172団の皆様取り組みは緑を守る、そして緑を守る人を育てる活動を精力的に行っており、地域の方々と一緒に環境問題に取り組んでおられます。地産地消を推奨したり、「エシカル工作」教室を行うなどしてSDGsを意識する人を増やす活動は、まさに未来に繋がる素晴らしい取り組み内容であったと思います。今後も団員の皆様が主体的になり活動することで、より一層活動の輪が広がっていくことを期待しています。

株式会社ニトリホールディングス 代表取締役社長 白井 俊之

受賞者コメント

学校や練馬の皆さんに報告し喜んでもらいました。ありがとうございます。次はこの活動を日本のガールスカウトに広めていきたいです。(中学生スカウト)発表は、しんさいんの人や大人の人がたくさんいてきんちょうしました。これからも、親せきの人や友だちにみどりの大切さを知ってもらうように活動したいです。(小学生スカウト)

大好き大牟田！未来の大牟田のために、今、できること！

大牟田市立明治小学校

〒836-0012 福岡県大牟田市明治町2丁目21番地1

☎0944-53-6017 <http://www.e-net21.city.omuta.fukuoka.jp/meiji-es/>



SDGsの項目7、項目11を達成させるために、エネルギーや自然・環境への関心を深め、「省エネ・省資源」「自然・環境の保持・美化」を実践できる児童を育成するために、各学年の発達段階に応じて様々な取り組みを行っている。「緑のカーテンづくり」「ソーラーキッチン」「川の水質調査や生き物調べ」等、体験的な活動を通して、実感をもってエネルギー環境について課題をとらえ、解決する子どもたちの姿が見られる。



審査コメント

明治小学校の取り組みは15年以上の活動実績があり、総合的な学習の時間を利用してエネルギー環境教育を継続し、SDGsの項目7「エネルギーをみんなにそしてクリーンに」を達成すべく自分達で出来る事を考えさせ、行動出来る子供を育成しています。また地域一体となり、先ずは地域の現状を理解させ、環境保全に継続して取り組む姿勢は素晴らしく、何よりも大牟田市が大好きである事が伝わってきました。SDGsの目標達成に向けて、明治小学校独自に学年ごとのテーマを設定し、持続可能な社会を担う子供達の育成に努めている活動は、「脱炭素未来づくり賞」にふさわしい活動であると評価しました。

レンゴー株式会社 環境・安全衛生部長 古家 栄二

受賞者コメント

この度はこのような賞を頂戴し、誠にありがとうございます。他のファイナリストの方々のPRが素晴らしく、正直、選ばれる自信がなかったので、明治小学校の取り組みを評価していただきましたことに、本当に感謝しています。受賞報告をしたところ、子どもたちも先生方も、そして、地域の方々も大変喜んでおりました。来年度、出前授業もしていただくことになっており、楽しみにしています。これからも、二酸化炭素を減らすため、各学年の学習を充実させ、ちょっと頑張ればできる取り組みを継続していきます。また、子どもたちの頑張りを認め、自分たちの学びがSDGsのどこにつながっているのか、価値づけしていきたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。



市民部門

日本WPA最優秀未来へのはばたき賞

学童プレハブ-6℃作戦からの施設木造化の実現

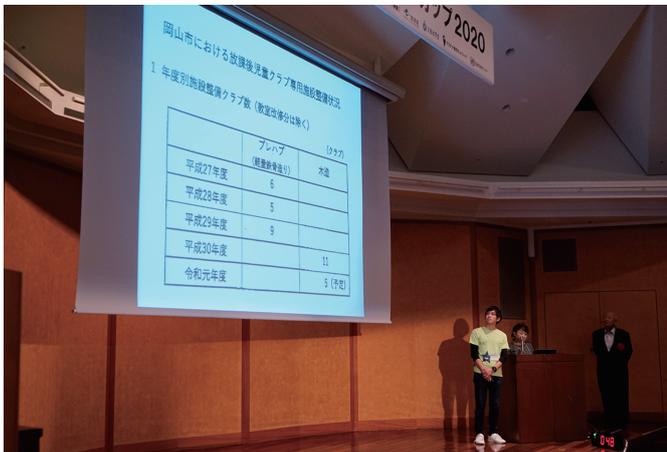
岡山県学童保育連絡協議会

〒700-0867 岡山県岡山市北区岡町14-9 岡町ビル201

☎090-7131-5672 <https://www.facebook.com/gakudoucool/>



2014年度岡山県多様な主体の協働による地域支援事業で、地域コミュニティ、NPO、地元企業とともに岡山市の学童保育プレハブ施設の環境改善に取り組んだ。この活動をきっかけに2016年倉敷市の学童クラブが、木造の施設建設を実現した。この取り組みを岡山市の学童保育担当課が視察し、岡山市の新築に関しては「木造」建築が基本方針となり、2018年度11施設が実現、2019年度も建設中。全国に発信している。



審査コメント

働き方改革を推進するうえで、共働き家庭の児童に「放課後のお家」を提供する学童保育の重要性がますます高まっている。学童保育施設を、簡易のプレハブから木造化することにより、未来を担う児童が安全で健康に快適に過ごせる施設になる。仮設のプレハブ施設では、空調の効果が不十分である。脱炭素の観点からも、空調エネルギーを低減できる木造化が有効である。折からの新型コロナウィルス感染症対策の「一斉休校」施策を支えているのが、学童保育施設である。施設の省エネルギー化、快適化が必須の課題である。

一般社団法人日本WPA 事務局長 小川 勇造

受賞者コメント

「学童保育」に注目いただき、感謝です。早速、SNSで報告し、全国の関係者に喜んでいただきました。現在、木造施設の建設に取り組んでいる他県のメンバーにも大きなエールが送れました。期せずして、その後の3月になって注目を集めてしまった「学童保育」ですが、着目して応援してくださる団体様、企業様がいらっしゃることを力にして、全国の学童保育施設の木造化を目指し、子どもたちが子どもの頃から木に触れ、地球環境について考えながら大人になっていけるようがんばりたいと思います。「学童プレハブ-6℃作戦」から協力いただいたNPO、中小企業家同友会、岡山県民局や木造化の英断をされた岡山市などに盾と賞状を持って報告に行く予定です。

エネルギー作物のエリアンサスの栽培・利用システムの構築と普及

東京農業大学農学部・エリアンサスグループ

〒243-0034 神奈川県神奈川県厚木市船子1737

☎046-270-6220 <https://www.facebook.com/東京農業大学農学部デザイン農学科社会デザイン農学研究室-107527540592028/>

最優秀わくわく未来賞
財団主催の
環境講座イベント
ご招待

公益財団法人 SOMPO環境財団



エリアンサスというエネルギー原料作物の特性の解明、栽培システムの構築、エネルギー変換と利用に関する研究を、卒業論文を含めて進めています。また、その研究成果を学会で発表したり、学術論文として社会的に発信するとともに、農学部のカリキュラムにも反映させています。さらに、オープンキャンパスや展示会で紹介し、福島県浪江町での栽培試験を踏まえて提案を行い、現場へのフィードバックを少しずつ進めています。



審査コメント

SOMPO環境財団では「わくわく未来賞」という名称で、未来の環境保全につながる取り組みを応援しています。東京農業大学農学部・エリアンサスグループの「エネルギー作物エリアンサスの栽培・利用システムの構築と普及」は、国際的な批判を受けて厳しい状況にある石炭火力発電や原子力発電の新規活用が困難な日本にとって、有効な地球温暖化対策となるだけでなく、地域分散型エネルギーとして再生可能エネルギーの地産地消につながる取り組みでもあります。急速な人口減少が進む日本の農村地域における耕作放棄地対策としても更なる発展も期待できます。皆さまの今後の活躍に期待しております。

公益財団法人SOMPO環境財団 事務局長 佐藤 孝治

受賞者コメント

本企画への応募は、これまでの実績に毎年の活動を積み上げながら3回目、今回初めてファイナリストに残り、入賞となりました。私たちの活動は、再生可能エネルギーの利用を通して低炭素社会、さらに脱炭素社会の構築を目指すものですが、同時に日本の喫緊の課題である被災地の復興支援、農業振興、耕作放棄地対策にも寄与するものです。単に研究や教育に留まらず、その成果を社会実装することの実効性が上がってきました。このような活動内容をご理解頂き、しかも評価して頂いたことは大変ありがたいことです。グループメンバーのモチベーションがさらに上がりましたので、現場への還元に向けてさらに努力していきたいと考えています。

「湖底こううん」で底質環境改善～炭素循環で生物を守る！～

湖底こううん隊

〒683-0853 鳥取県米子市両三柳3053番地8
☎090-1189-1369



2014年から毎月1回の定期耕耘と毎年1～2回のイベントを開催。地域の小学生と共に湖底耕耘と、水質および底質改善方法について体験型の学習会を実施した。2018年のイベントでは「掻い掘り」と呼ばれる池干しを行った。継続的に取り組みを展開していった結果、当初見られなかった底生生物が現れるようになった。また、国立米子工業高等専門学校と連携して、水質や底泥の厚さ等のモニタリングを継続的に実施している。



審査コメント

「湖底こううん隊」の皆さま、受賞おめでとうございます!

湖の底を手作業で攪拌、湖底にたまったヘドロを空気にさらし、メタンの抑制も含め湖底の生態系を守るという活動は、シンプルで効果をはっきりと分かる取り組みであると感じております。また、一過性の取り組みではなく、代々先輩から後輩に引き継がれ、地域で持続している取り組みという点に感銘を受けました。大きくCO₂を下げるためには、大規模な工業プロセスでの対策も必要ですが、一方でこうした地域毎に受け継がれ、地域に根差した個々の削減活動も重要です。今後もぜひ、こういった活動を未来へ繋げていってほしいと思います。

株式会社ウェイトボックス 代表取締役 鈴木 修一郎

受賞者コメント

この度はウェイトボックスCO₂の見える化賞にご選出いただき誠にありがとうございます。私たちが湖底こううんを始めて7年が経過します。本番のステージでもご説明させていただいたように、マンパワーで行うこううんは決して楽な活動ではありません。慣れていないときは筋肉痛を起こしたり、悪臭に対し苦戦を強いられましたが、先輩方から活動を引き継ぎ、地域の皆様に支えられてここまで続けてこられました。7年の活動により公園の池は目に見えて綺麗になり、地域にわずかながらも貢献できていることにやりがいを感じています。今回の受賞を励みに今後もこううんを続けていき、脱炭素社会のため、さらに活動の規模を広げて隊員一同尽力してまいります。

ESD for SDGs 持続可能な未来を考える環境教育

京都市立朱雀第四小学校

〒604-8482 京都府京都市中京区西ノ京笠殿町164

☎075-841-3204 <http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=103305>



校舎・ビオトープを生かした環境教育を全学年系統的に行っている。特に4年生以上の総合的な学習「あかしや環境プログラム」で地球温暖化防止や省エネルギーをテーマに探究学習をしている。そしてどの学年もエコフォーラムを行い、自分たちでできることを考え、実践したり、発信したりしている。また、毎月16日を「DO YOU KYOTOデー 環境にいいことしていますか?」として、学校全体でもCO₂削減に努めている。



審査コメント

2050年の脱炭素社会を目指し地球温暖化防止のための環境学習プログラムを全校あげて実践されています。学校のビオトープやエコ改修をした校舎を舞台に活動することに加え、地域の皆さんとの活動も積極的に行い社会とのつながりを大事にされています。当日のプレゼンでは、ユーモアあふれる先生たちの掛け合いや、子供たちのエコライブ宣言・楽しいエコアイデアを紹介するビデオレターがとも目を引くステージでした。さらに環境活動に加えて探求的・ハートフル学習にも取り組まれており、性別や障害国籍をこえた社会について考える授業もされています。20年続いてきた環境学習として2050年に向けた活動に敬意を表し応援させていただきます。

株式会社タカラトミー 関係会社管理部 社会活動推進課 課長 高林 慎亨

受賞者コメント

今回の脱炭素チャレンジカップ2020において、本校が20年以上継続してきた環境教育について、次世代を笑顔にする「最優秀次世代賞」として評価していただいたこと大変感謝しております。ありがとうございました。学校の児童や教職員はもちろん、学習に関わって下さった地域や関係機関の方々に報告をして、みんなで喜びを分かち合いました。この賞を励みに「Do you kyoto? 環境にいいことしていますか?」を合言葉に京都市と共に、2050年にCO₂排出量0につながる学習をこれからも継続・発展させていきます。また、「ESD for SDGs」がテーマである「あかしや環境学習」で持続可能な未来を担う子どもを育てていきます。

CO₂排出量ゼロの展示館による脱炭素社会促進活動

株式会社ダイフク滋賀事業所 日に新たな館

〒529-1692 滋賀県蒲生郡日野町中在寺1225

☎0748-53-8325 <https://www.daifuku.com/jp/showroom/hiniaratakan/about/>



当館ではCO₂排出削減を心がけた日々の運用に加え、2014年から運営に関わる削減しきれないエネルギー量と送迎バスの軽油使用量から算出したCO₂排出量をCO₂削減事業の排出枠に抛出し、100%カーボン・オフセットすることでCO₂排出量ゼロの展示館を実現。年間約2万人の来館者へ当社環境への取り組みを説明すると共に、CO₂オフセット印字ハガキをお渡しすることで脱炭素への意識を持っていただく活動をしています。



審査コメント

工場や倉庫での製品移動設備で知られる株式会社ダイフクの滋賀事業所は、環境負荷を低減するユニークな取り組みが際立っています。総合展示施設「日に新たな館」でのカーボンニュートラル、社員食堂などから出る天ぷら油から作ったバイオディーゼルを送迎バスで利用、県内最大規模(4.4MW)のソーラー発電設備など、一つ一つが本格的なものばかりで、今後の展開が楽しみです。

株式会社オルタナ 代表取締役 編集長 森 撰

受賞者コメント

この度は大変名誉ある賞をいただき、誠にありがとうございます。当日は緊張が止まりませんでした。私達が行っている活動を皆さんに伝えることができたことを嬉しく思っています。日に新たな館ではご来館くださる年間約2万名のお客様に対して、ダイフク製品だけでなく脱炭素社会促進運動についても知っていただきたいという思いでポストカード配布やメガソーラーのご紹介、小学生の社会科見学の受け入れなど様々な活動を行っています。今までの活動はもちろん、これからも世界に類を見ないCO₂排出量ゼロの展示場としてあらゆる情報を発信していくとともに地球環境の保全に貢献していきます。ぜひ滋賀県にある日に新たな館へお越しください!

地球温暖化の知識・意識・行動の改善に関わる環境教育の実践

秋田北鷹高等学校科学部ESD班

〒018-3314 秋田県北秋田市伊勢町1番1号

☎0186-60-0151 <https://akitahokuyouhsshtestpage.wordpress.com/page/1/>



経済発展に伴うCO₂排出量の増加が見込まれるマレーシアで、小学生～高校生、環境行政関係者等延べ250名以上を対象に環境教育プログラムを実施した。このプログラムは、現地の高校生と協働開発したものであり、行動変容に注目し高校におけるAction Plan作成に繋がる内容に改変して、2019年9月に実施した。なお、プログラムの構築過程で秋田県内2か所、50名程度に対してプログラムを実施した。



審査コメント

経済発展が著しいマレーシアへの普及啓発活動を行う価値は高いと思います。日本モデルの普及啓発活動をそのまま実施するのではなく、マレーシアの高校生と共同でプログラム開発を行っており、現地の事情に合わせた内容に工夫しており、知識・意識・行動の改善が世界への広がるのではないかと期待しています。

NPO法人気象キャスターネットワーク 副代表/事務局長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

私たちの活動が、このような賞を受賞できて、とても嬉しく思います。マレーシアから来日された方々も大喜びでした。他団体の発表や交流会を通じて、この活動には、まだまだ改善することができる箇所がたくさんあるということも再認識することもできました。例えば、このプログラムは、地元地域ではあまり実施していないため、地域の人たちには十分知られていません。また、プログラム内容も日本とマレーシアの違いに分かりにくい部分もあります。今後は、地域内でもマレーシアと同じようなプログラムを実践して、私たちの活動の認知度を高めていきたいです。この継続が、日本とマレーシアの脱炭素に貢献できるように頑張っていきたいと思います。

アオコを肥料へ！ 荒れ地に命を！ 千波湖脱炭素市民プロジェクト

千波湖水質浄化推進協会

〒306-0617 茨城県坂東市神田山935-1

☎0297-20-8866 http://www.kankyokanri.or.jp/emai_senbako.html

オーディエンス賞
マクドナルド
ハンバーガー1年分



千波湖のアオコを減らしていくための水質浄化システムは、千波湖浄化を願う市民とともに考えついたエコシステム。凝集剤などの薬品を使用せずにアオコだけを取り除き、回収されたアオコは肥料になるという画期的な脱炭素化を実現。湖岸には自然再生を目指して市民がヨシを植え、湖内にはガマやアヤメを植えた浮島を10基設置し、植物繁殖促進LEDも装着。周辺休耕田では市民が5haに及ぶ里山再生を行いホテルが復活している。

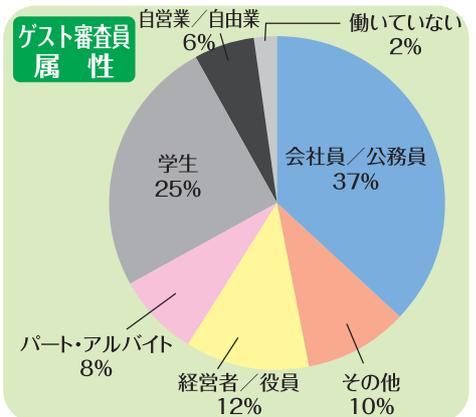


受賞者コメント

日本三大名園の偕楽園に隣接する千波湖の水質を浄化するために導入したマイクロバブル方式のアオコ除去マシンは、水面に浮いているアオコだけを回収・濃縮し、燃やすことなく肥料化することで脱炭素を実現しました。同じ悩みを持つ全国の湖に脱炭素の輪を広げるきっかけになったと思います。体を張った寸劇を楽しんでいただけたことにも満足しています。

審査方法

一般の方を対象に、ホームページで「ゲスト審査員」を公募しました。ゲスト審査員は、ファイナリスト28団体すべてのプレゼンテーション発表を観覧し、最も感銘を受けた2団体へ投票して頂きました。
当日は、65名にゲスト審査員として審査いただき、投票の結果「オーディエンス賞」2団体が決定いたしました。



ふじのくにCOOLチャレンジ クルポ事業

ふじのくにCOOLチャレンジ実行委員会

〒420-0851 静岡県静岡市葵区黒金町12-5 丸伸ビル2階
☎054-271-8806 <http://f-cc.net/index.html>

アプリ「クルポ」を活用した、静岡県の全世代参加型の県民運動。温暖化防止のための活動(クールアクション)を行った方が、アプリから各アクション実施場所に掲示されているQRコードを読みとってポイントを獲得。30ポイント毎に、様々な賞品の当たる抽選に参加できる。クールアクションには、「クール/ウォームシェア」「公共交通の利用」「宅配荷物の再配達防止」など幅広いメニューがある。



審査コメント

アプリを活用した仕組みは、多くの市民が参加できる非常に有効なツールであると思います。クールアクションをポイント付与という形で地域全体で参加を促しており、クルポ事業は静岡県全体に広がっていると感じました。今後も県民運動として益々多くの方が参加することで、大きな効果が期待できると思います。

審査・企業/団体賞選考委員会 委員長 岩谷 忠幸

受賞者コメント

オール静岡で取り組んできたクルポ事業を、審査員の皆様に、今後の展開が期待される優れた活動として高く評価していただき、大変うれしく思っています。ご期待いただいたとおり、2月19日の脱炭素チャレンジカップの後にも、新たに、県内に約100店舗を展開するスーパーマーケットや大手コンビニエンスストアチェーンとの連携が決まるなど、クルポに関わる主体はどんどん増え、活動の裾野が広がっています。

今回の受賞を励みに、これからもアプリを通じた楽しく、参加しやすい温暖化防止の取り組みを広げ、継続していきます。ありがとうございました。

ナッジによる省エネ行動誘発に向けた情報デザイン法の構築と実践

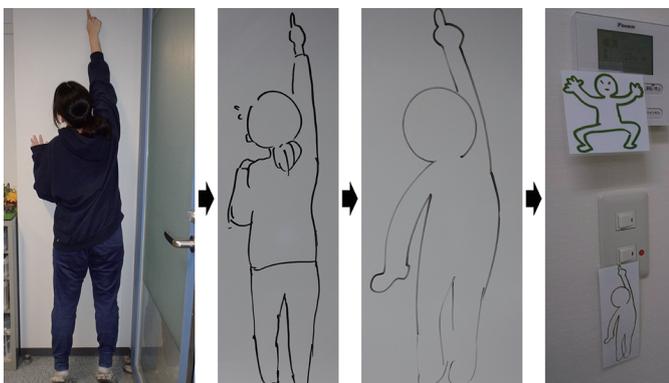
宇都宮大学建築環境研究室

〒321-8585 栃木県宇都宮市陽東7-1-2
☎028-689-7039 <https://itoigawa1.wixsite.com/uu-kankyo>

我々の取組は、「情報デザイン法の構築と実践」と「活動を通じた温暖化防止マインドの育成」で構成されている。

「情報デザイン法の構築と実践」では、省エネ行動の誘発に向けた情報(ナッジ)をデザインする方法を論理的・学術的に構築し、栃木県を中心として全国各地で実践や効果検証を行っている。

「活動を通じた温暖化防止マインドの育成」では、省エネ行動誘発につながるナッジのデザインを、学生が担っている。



ファイナリスト紹介



ジュニア・キッズ部門

優秀賞

地産地消・食品ロス削減を通してSDGsへの挑戦

徳島県上板町立高志小学校

〒771-1347 徳島県板野郡上板町高瀬1108

☎088-694-2815 <https://e-school.e-tokushima.or.jp/kamiita/es/takashi/html/htdocs/>

食品ロスの削減・地産地消の推進(フードマイレージ)といった「社会的課題」を解決するため、地域の一次産業(野菜、藍、養豚等)従事者、学校給食センター、各種企業、関係行政機関(徳島県庁・町役場)、NPO等と連携し、生産過程で発生する規格外農産物の活用、阿波藍の六次産業体験、各種地産地消体験、エシカル消費体験を通してSDGsへ挑戦、低炭素社会実現に向けて課題解決的・プロジェクト的に教育活動を行う。



市民部門

優秀賞

小さな自然エネルギーを活用した「限界集落再生」化プロジェクト

NPO法人環境とくしまネットワーク

〒772-0051 徳島県鳴門市鳴門町高島字竹島462番地

☎090-3786-2276 <http://kankyoutokushima.web.fc2.com/index.html>

公共サービスが行き届かない中山間過疎地区で、地域の未利用再生可能エネルギー(太陽光、風力、水力)等、地域資源エネルギーを活用することで、地域コミュニティの復活再生に向け、小型版再生可能エネルギー発電機を設置、確保できるエネルギーの実測データと周辺の自然環境気象も同時計測、その結果を基に、対象コミュニティが地球温暖化対策・地域づくり・防災対策に向けての自立育成プロジェクトとなります。



自動車部品廃材によるリサイクル品研究・開発

ドリームやまがた里山プロジェクト

〒990-0031 山形県山形市十日町3-9-36
 ☎023-666-6967 <https://satoyama.yamagata-npo.net/>

山形県では年間約3.5万台が使用済み自動車として適正処理されます。その90%はリサイクルされますが、残り10%は破棄されます。廃棄物削減と、近年多発する水難事故対策として、シートベルト・エアバッグ、そしてマイクロプラスチックの原因である発泡スチロールを活用し、全国初の試みのライフジャケットを製作しました。製作後は、海・川での事故ゼロを目指したライフジャケット着用向上訴求イベントを県内各地で開催しています。



ハーモニーロードウッド(木質加熱アスファルト舗装)

田中建材株式会社

〒520-1621 滋賀県高島市今津町今津1677-14
 ☎0740-22-0217 www.tanakakenzai.co.jp

解体から発生した木質は、当時、焼却処分が主流でした。最初に肥料化に取り組み、その当時としては国内で初めて肥料化を認めていただきました。しかし、価格面で市場に対応できませんでした。次に、炭化に取り組み、農業排水の吸着剤として利用し圃場に循環するシステムを農協や滋賀県と試験施工しました。効果的には良い結果を得られましたが、現状農業でのコスト負担の壁に阻まれました。次に木質の舗装に取り組みました。





企業・自治体部門

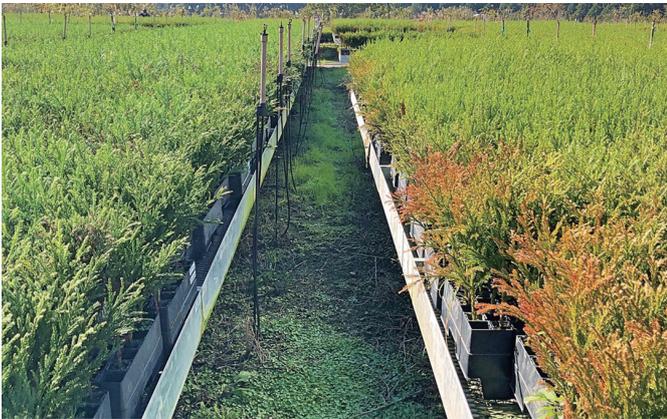
優秀賞

森林資源フル活用プロジェクト「森活」

会津森林活用機構株式会社・会津地域森林資源活用事業推進協議会

〒966-0902 福島県喜多方市松山町村松字常盤町2706
☎050-3818-7048 <http://www.a-forest.co.jp/index.html>

- ◇会津地域の未利用森林資源のフル活用を目指し、川上～川中～川下まで合理的な活動を行う。未利用森林で主伐再造林を行い、製材品・燃料チップの製造とともにCO₂削減を図り、地域循環型の林業を推進していく。
- ◇単一市町村では需給バランスを描くことの難しい林業、製材業、バイオマス事業いずれにおいて、会津地域13市町村と民間とが協業で進めていくことで、実現性のある構想・計画・事業化が可能となる。



企業・自治体部門

優秀賞

小さなエコから大きなエコまで実践体感、そして普及活動へ!

株式会社三創

〒983-0822 宮城県仙台市宮城野区燕沢東1-10-30
☎022-388-1391 <https://www.yane-sanso.com/>

弊社敷地内で庭づくりをした事がきっかけで、雨水利用や段ボールで作る生ごみ堆肥作りを始めたことで環境・エコに目が向くようになりました。

エコ活動を通して多くの人と関わり、楽しくエコ活動を続ける方法などを模索しながら地球温暖化対策に寄与できる、雨水利用の普及、循環型庭づくりの普及、太陽光発電の普及、電気自動車の普及をめざしています。





企業・自治体部門

優秀賞

地方特産品の食品リサイクル・ループプロジェクト

株式会社マルミヤストア

〒876-0815 大分県佐伯市野岡町2丁目1番10号
☎0972-23-8111 <http://www.marumiya-st.jp/>

大分県内の産地および資源再生事業者と連携し、店舗から排出される食品残渣を肥料化、その堆肥を用いてトウモロコシの栽培を行い、再び店舗で販売する食品リサイクル・ループを構築した。

さらに消費者を産地に招き、生産者との対話や店頭に並ぶ食品がどのような経路を経て販売されるか、現地での収穫体験や親子料理教室を通じ貧困や食品ロスの社会的負担等を知る食育活動を開始し、今後も継続する計画である。



企業・自治体部門

優秀賞

みんなで地球をまもろう！～ごみの分別排出の徹底とリサイクルの推進～

マルイファミリー溝口・ノクティプラザ

〒213-0001 神奈川県川崎市高津区溝口1-3-1
☎044-814-7777 <https://www.0101maruigroup.co.jp/> <https://www.nocty.jp/>

ゴミ処理の運用を大幅に刷新し、分別サポート人員の配置やテナント毎の種類別計量、データ管理を実施することで、分別の徹底とリサイクルを推進しています。処理施設は名称を「エコファクトリー」としてリニューアルし、スムーズな導線確保や分かりやすい案内表示など誰もが安心して分別できる環境を整えました。その結果、リサイクル率は78%(前年度比+35%)と大幅に向上しました。

